

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	釧路工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
	創造工学科（情報工学分野）	夜・通信		4	4	8	7	
	創造工学科（機械工学分野）	夜・通信			12	16	7	
	創造工学科（電気工学分野）	夜・通信			10	14	7	
	創造工学科（電子工学分野）	夜・通信			6	10	7	
	創造工学科（建築工学分野）	夜・通信			7	11	7	
	建設・生産システム工学専攻	夜・通信		4	9	13	7	
	電子情報システム工学専攻	夜・通信			4	8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

情報工学分野： https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=11&year=2026&lang=ja 機械工学分野： https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=12&year=2026&lang=ja 電気工学分野： https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=13&year=2026&lang=ja 電子工学分野：
--

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=14&year=2026&lang=ja
 建築学分野：
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=15&year=2026&lang=ja
 建設・生産システム工学専攻：
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=21&year=2026&lang=ja
 電子情報システム工学専攻：
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=22&year=2026&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	釧路工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	国立高等専門学校 理事（2024年4月1日～2026年3月31日）	2026年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	文部科学省官房参事官（命）文部科学戦略官	2026年4月1日～2026年10月15日	総務
非常勤	東京大学教授	2026年4月1日～2028年3月31日	ダイバーシティ
常勤	東北大学工学研究科長	2026年4月1日～2028年3月31日	研究・産学連携 茨城工業高等専門学校校長兼務
（備考） 理事長は2024年3月31日まで九州大学大学院総合理工学府長・研究院長			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	釧路工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 高専機構として運用している Web シラバスシステム上で、シラバスを作成し、公表している。シラバス記載事項のガイドラインとして教務委員会策定の「Web シラバス入力ガイド」がある。 令和8年度のシラバスは、令和8年2月24日までに教員が入力及び自己チェック、令和8年2月27日までに機械的チェックを実施した。令和8年4月1日に新年度シラバスを公開し、一般からの閲覧を可能とした。 授業の初回に、科目担当教員が学生にシラバスを印刷して配布するなどして説明している。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=03&lang=ja
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 科目ごとに、試験やレポート、卒業論文などによる成績評価方法がシラバスに記載されている。これに従ってつけられた評点を教務事務システムで集計し、定期試験ごとに保護者に郵送で結果を通知している。年度末には、教員会議において評点を確認し、単位認定および進級認定している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績の分布状況について「釧路工業高等専門学校学業成績の試験、評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規」第7条の3に「学年及び学級における席次は、当該年度に履修した科目の評点到単位数を乗じ、その合計を履修した総単位数で除した点数（以下「加重平均点」という。）により決定する。ただし、釧路工業高等専門学校学則別表1及び別表2に定める進級及び卒業に必要な修得単位数には含まれないが単位認定は行う科目は加重平均点から除外する。」と規定しており、これを学生便覧に記載して配布している。この規定にもとづいて教務事務システムで各科目の評点を集計し、決定した席次を定期試験ごとに保護者に通知している。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	学生便覧(44 頁)に記載して配布 https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2011/05/%E5%AD%A6%E7%94%9F%E4%BE%BF%E8%A6%A72026%EF%BC%88R08%EF%BC%89.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

	(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定方針について「釧路工業高等専門学校学業成績の試験、評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規」第8条に、 「進級及び卒業の認定は、原則として教員会議の議を経て、校長が行う。 2 進級及び卒業の認定にあたっては、当該学年までの必修科目及び必要な選択科目が全て単位認定されていなければならない。ただし、校長が特別の事情があると認めた場合は、この限りでない。」 と規定しており、これを学生便覧に記載して配布している。この規定にもとづいて教員会議の議を経て校長が卒業の認定を行っている。
卒業の認定に関する 方針の公表方法	学生便覧(45 頁)に記載して配布 https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2011/05/%E5%AD%A6%E7%94%9F%E4%BE%BF%E8%A6%A72026%EF%BC%88R08%EF%BC%89.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	釧路工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和8年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kushiro-ct.ac.jp/2011/05/20/3644/

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	創造工学科 スマートメカニクスコース 情報工学分野
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kushiro-ct.ac.jp/sstudy/div-creat/ ）	（概要） 本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 創造工学科の教育上の目的は、情報工学、機械工学、電気工学、電子工学、建築学の各専門分野を融合し、地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成することとする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_diploma_policy2.pdf ）	（概要） 本校では、学則に定める所定の単位を修得し、実践的・創造的技術者として以下のディプロマポリシーに基づく必要な能力を身につけ、5年間の課程を修了した者に対し、卒業を認定します。ただし、各コース及び分野の特性に応じた専門性については、カリキュラムポリシーに基づく教育課程の中で段階的に育成する。 学習目標 D P—A：社会・倫理的理解力 人類の歴史的背景、文化及び価値観の多様性を踏まえ、技術が社会や環境に与える影響を多角的に捉え、地球的規模の社会問題・環境問題について技術者の立場から考察できる。また、技術者が社会に対して負う責任を理解し、倫理的配慮に基づいた判断ができる。 D P—B：地域・社会課題対応力 地域産業や社会が直面する課題を把握し、工学的知識や技術を活用して、その解決に向けた基礎的な検討や提案を行うことができる。地域社会との関わりを意識し、実践的な視点で課題に取り組む姿勢を有する。 D P—C：工学基礎力 数学、自然科学、情報技術及び基礎工学に関する幅広い知識を修得し、それらを組み合わせて技術的課題を理解・説明し、基礎的な問題解決に応用できる。 D P—D：専門分野応用力 各コース及び分野における専門分野の知識と技術を修得し、専門的観点から課題を捉え、適切な手法を選択して応用することができる。複数分野を有するコースにおいては、それぞれの分野の特性を理解した上で専門性を発揮できる。 D P—E：課題解決・協働力 技術的課題を分析・整理し、解決に向けた計画を立案・実行し、その結果を評価・改善する一連のプロセスを遂行できる。また、他者と協働し、役割分担や意見交換を通じてチームとして課題解決に取り組むことができる。 D P—F：コミュニケーション力 文章、口頭発表、図表及び視覚的表現を用いて、技術的内容や自身の考えを論理的かつ分かりやすく伝えることができる。また、日本語による的確な記述・討論能力に加え、基礎的な英語による文章作成及び簡単な口頭コミュニケーションを行うことができる。 D P—G：主体的・継続的学修力 技術の進展や社会の変化を踏まえ、自らの専門分野及び関連分野について主体的に学び続ける必要性を理解し、継続的に学修に取り組む姿勢を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_curriculum_policy2.pdf ）	

(概要)

本学科では、ディプロマポリシーに掲げる学修成果（DP-A～G）を達成するため、スマートメカニクスコース（情報工学分野・機械工学分野）、エレクトロニクスコース（電気工学分野・電子工学分野）、建築デザインコース（建築学分野）を設置し、いずれのコースにおいても共通の学修成果を保証するとともに、コース・分野ごとの専門性を段階的に育成する。

なお、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。

1. 第1学年では混合学級とし、一般科目、学科共通科目を中心に編成する。
2. 第2学年から、分野ごとに配属が決定し、学年が進むに従いコース別、分野別の専門科目が多くなるくさび型に科目を編成する。
3. 第4学年では、5分野に亘る幅広い知識・技術・応用力等を身につけるため、各分野共通科目である複合融合演習等を編成する。

1. 教育課程の学科共通科目の編成方針

(1) 一般科目

全コース共通の一般科目として、数学、自然科学、人文・社会科学を配置し、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-C（工学基礎力）、DP-G（主体的・継続的学修力）の基盤を形成する。これにより、技術と社会・環境との関係を理解し、専門教育へ円滑に接続できる基礎力を育成する。これらの科目は低学年を中心に編成する。

(2) 専門科目

全コース共通の専門科目として、基礎工学、情報技術、計測・制御、材料・構造の基礎等を配置し、DP-C（工学基礎力）、DP-E（課題解決・協働力）を中心に育成する。これらの科目は、各コース・分野に共通する専門基盤として位置づけ、専門教育への円滑な接続を図る。

さらに、本校独自の教育的特色として、全コースの学生が履修可能な横断的専門科目を配置し、分野横断的な視点と実践的能力の育成を図る。

複合融合演習

課題発見・解決型の複合融合演習を必修科目として配置し、各分野の学生が混合チームを作り自ら課題を設定し、調査・分析・議論を通じて解決策を検討する学修機会を提供する。これにより、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-B（地域・社会課題対応力）、DP-D（専門分野応用力）、DP-E（課題解決・協働力）、DP-F（コミュニケーション力）、DP-G（主体的・継続的学修力）の強化・育成を図る。

半導体技術者教育

全コースの学生が受講可能な選択科目として、半導体技術を中心とした工学基盤技術に関する教育を行い、現代の工学分野に共通する基礎的理解と応用的視点を養う。これらの科目は、DP-B（地域・社会課題対応力）、DP-C（工学基礎力）、DP-D（専門分野応用力）の基盤形成に寄与する。

海外異文化理解

海外異文化理解に関する選択科目を配置し、異なる文化的背景や価値観を理解することを通じて、技術と社会の関係を国際的視点から考察する能力を育成する。これにより、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-F（コミュニケーション力）の涵養を図るとともに、技術者としての国際的素養を身につける。

数理データサイエンス及びAI教育

数理・データサイエンス及びAIに関する科目群を選択科目として配置し、データに基づく課題分析や意思決定の基礎を学ぶ機会を提供する。これらの学修を通じて、DP-C（工学基礎力）、DP-E（課題解決・協働力）、DP-G（主体的・継続的学修力）を強化する。

2. コース別・分野別科目の編成方針

スマートメカニクスコース

スマートメカニクスコースでは、情報系分野と機械系分野を組み合わせ、両分野に共通する工学基礎及び情報・制御に関する基盤を修得するためのコース共通科目を用意した上で、各分野の専門性を段階的に学修できる教育課程を編成する。

情報工学分野

情報工学分野では、情報の取得、処理、蓄積及び伝達に関わる専門的知識と技術を体系的に修得する。これらを基に、情報を活用した課題の分析や解決に取り組む能力を育成する。また、演習や実験等を通じて、チームで協働しながら課題に対応する力を養う。本分野では、DP-D（専門分野応用力）及びDP-E（課題解決・協働力）を重点的に育成する。

3. 実践的・統合的学修

全コース共通で、実験・実習、卒業研究を必修科目として配置し、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-B（地域・社会課題対応力）、DP-D（専門分野応用力）、DP-E（課題解決・協働力）、DP-F（コミュニケーション力）、DP-G（主体的・継続的学修力）を総合的に育成する。特に卒業研究では、各コース・分野の専門性を踏まえつつ、自ら課題を設定し、計画・実行・発表までを行う能力を評価する。

4. 教育方法・学修方法

教育方法・学修方法はDPに基づき次のように設定する。各科目は講義、演習、実験・実習、グループワーク、プレゼンテーションなどを適切に組み合わせ、その学修方法をシラバスに明記する。アクティブ・ラーニングやLMSを活用し、学生の主体的な学修を促進する。コース・分野横断的な学修機会を設け、多様な専門分野への理解を深める。

5. 成績評価・到達度評価

成績評価や達成度評価は次のように実施する。各科目において、シラバスに到達目標及び評価方法を明示する。成績評価は、筆記試験、レポート、小テスト、発表、作品評価、実技等により、DPに掲げる学修成果の到達度を多面的に評価する。卒業研究では、DP-D、DP-E、DP-F、DP-Gを中心に総合評価を行う。各科目の成績は以下の基準に基づき100点法で評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。

秀：90～100点、優：80～89点、良：70～79点、

可：60～69点、不可：59点以下

なお、学則第26条の2、第28条及び第28条の2に規定する単位認定の標語については、先の基準にかかわらず「認」とする。

6. 教育課程の点検・改善

DPならびにCPの改善については次のように実施する。学修成果、成績分布、学生アンケート等を用いて教育目標、ならびにDP・CPを定期的に点検する。点検結果を基に、教育課程表、教育内容・方法・評価の改善を継続的に行い、ディプロマポリシーの達成水準を維持・向上させる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_admission_policy2.pdf）

（概要）

1. 基本方針

本学科では、ディプロマポリシーに掲げる学修成果（DP-A～DP-G）を達成できる学生を受け入れるため、工学を学ぶための基礎学力を備え、主体的に学修に取り組む意欲を有する人材を求めます。

本アドミッションポリシーは、学科及び各コース・分野において求める学生像を示すものであり、入学後の教育は、カリキュラムポリシーに基づき段階的に行います。

2. 創造工学科における求める学生像

工学を学ぶための基礎学力を備えた人で、以下のような資質や意欲を備えた学生の入学を期待しています。

(1) 工学・ものづくりへの関心と将来像

技術者として社会に貢献したいという意欲を持ち、工学や「ものづくり」に関心を有している人。【対応DP：DP-C、DP-D、DP-E】

(2) 主体的に学び続ける姿勢

向上心を持って学校生活に取り組み、新しい知識や技術を学び続けようとする意欲のある人。【対応DP：DP-G】

(3) 社会や地域への関心

社会の出来事や身近な課題に関心をもち、より良い社会を築こうとする意識を有している人。【対応DP：DP-A、DP-B】

(4) 協調性と他者への配慮

約束や規則を守り、周囲の人々を尊重しながら協働できる人。【対応DP：DP-E、DP-F】

(5) 挑戦する姿勢

失敗を恐れず、新しいことに挑戦し、粘り強く取り組もうとする意欲を有している人。

【対応DP：DP-E、DP-G】

3. 入学者選抜の基本方針

A. 第1年次入学者選抜

基礎学力及び学修意欲を総合的に評価し、本学科での学修に必要な基盤を有する者を選抜します。基礎学力については、本校での学習に重要な数学、理科、英語の成績を重視します。

(1) 自己推薦選抜

○ 自己推薦（一般）による選抜

志望動機書、個人調査書及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。

○ 自己推薦（特別）による選抜

志望動機書、個人調査書、作文及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。

○ 自己推薦（数学重視）による選抜

志望動機書、個人調査書及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。

(2) 学力選抜

○ 一般学力選抜

出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語、国語、社会）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。

○ 北海道内4高専複数校志望受検制度による選抜

出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語、国語、社会）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。

○ 帰国子女特別選抜

出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。

B. 第4年次編入学者選抜

志望するコース・分野の学修に必要な基礎学力及び専門的素養、ならびに主体的に学修に取り組む意欲を有する者を選抜します。英語、数学、理科（筆記試験）又は専門科目（口頭試問）（高等学校の出身科により、理科又は専門のいずれかを出題）による学力検査、

面接及び調査書により総合的に評価します。

4. コース・分野別に期待する学生像

スマートメカニクスコース（情報工学分野・機械工学分野）

情報技術と機械技術の融合に関心を持ち、情報工学分野又は機械工学分野のいずれかを基盤として、将来的に両分野を横断的に学修したいと考えている人を期待します。【対応DP：DP-C、DP-D、DP-E】

情報工学分野

1. コンピュータやプログラミングに興味がある人
2. 情報を活用して社会や産業に貢献したいと考えている人

学部等名	創造工学科	スマートメカニクスコース	機械工学分野
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kushiro-ct.ac.jp/sstudy/div-creat/ ）			
（概要） 本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 創造工学科の教育上の目的は、情報工学、機械工学、電気工学、電子工学、建築学の各専門分野を融合し、地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成することとする。			
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_diploma_policy2.pdf ）			
（概要） 本校では、学則に定める所定の単位を修得し、実践的・創造的技術者として以下のディプロマポリシーに基づく必要な能力を身につけ、5年間の課程を修了した者に対し、卒業を認定します。ただし、各コース及び分野の特性に応じた専門性については、カリキュラムポリシーに基づく教育課程の中で段階的に育成する。			
学習目標			
DP-A：社会・倫理的理解力 人類の歴史的背景、文化及び価値観の多様性を踏まえ、技術が社会や環境に与える影響を多角的に捉え、地球的規模の社会問題・環境問題について技術者の立場から考察できる。また、技術者が社会に対して負う責任を理解し、倫理的配慮に基づいた判断ができる。			
DP-B：地域・社会課題対応力 地域産業や社会が直面する課題を把握し、工学的知識や技術を活用して、その解決に向けた基礎的な検討や提案を行うことができる。地域社会との関わりを意識し、実践的な視点で課題に取り組む姿勢を有する。			
DP-C：工学基礎力 数学、自然科学、情報技術及び基礎工学に関する幅広い知識を修得し、それらを組み合わせて技術的課題を理解・説明し、基礎的な問題解決に応用できる。			
DP-D：専門分野応用力 各コース及び分野における専門分野の知識と技術を修得し、専門的観点から課題を捉え、適切な手法を選択して応用することができる。複数分野を有するコースにおいては、それぞれの分野の特性を理解した上で専門性を発揮できる。			
DP-E：課題解決・協働力 技術的課題を分析・整理し、解決に向けた計画を立案・実行し、その結果を評価・改善する一連のプロセスを遂行できる。また、他者と協働し、役割分担や意見交換を通じてチームとして課題解決に取り組むことができる。			
DP-F：コミュニケーション力 文章、口頭発表、図表及び視覚的表現を用いて、技術的内容や自身の考えを論理的かつ分			

かりやすく伝えることができる。また、日本語による的確な記述・討論能力に加え、基礎的な英語による文章作成及び簡単な口頭コミュニケーションを行うことができる。

DP－G：主体的・継続的学修力

技術の進展や社会の変化を踏まえ、自らの専門分野及び関連分野について主体的に学び続ける必要性を理解し、継続的に学修に取り組む姿勢を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_curriculum_policy2.pdf）

（概要）

本学科では、ディプロマポリシーに掲げる学修成果（DP-A～G）を達成するため、スマートメカニクスコース（情報工学分野・機械工学分野）、エレクトロニクスコース（電気工学分野・電子工学分野）、建築デザインコース（建築学分野）を設置し、いずれのコースにおいても共通の学修成果を保証するとともに、コース・分野ごとの専門性を段階的に育成する。

なお、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。

1. 第1学年では混合学級とし、一般科目、学科共通科目を中心に編成する。
2. 第2学年から、分野ごとに配属が決定し、学年が進むに従いコース別、分野別の専門科目が多くなるくさび型に科目を編成する。
3. 第4学年では、5分野に亘る幅広い知識・技術・応用力等を身につけるため、各分野共通科目である複合融合演習等を編成する。

1. 教育課程の学科共通科目の編成方針

（1）一般科目

全コース共通の一般科目として、数学、自然科学、人文・社会科学を配置し、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-C（工学基礎力）、DP-G（主体的・継続的学修力）の基盤を形成する。これにより、技術と社会・環境との関係を理解し、専門教育へ円滑に接続できる基礎力を育成する。これらの科目は低学年を中心に編成する。

（2）専門科目

全コース共通の専門科目として、基礎工学、情報技術、計測・制御、材料・構造の基礎等を配置し、DP-C（工学基礎力）、DP-E（課題解決・協働力）を中心に育成する。これらの科目は、各コース・分野に共通する専門基盤として位置づけ、専門教育への円滑な接続を図る。

さらに、本校独自の教育的特色として、全コースの学生が履修可能な横断的専門科目を配置し、分野横断的な視点と実践的能力の育成を図る。

複合融合演習

課題発見・解決型の複合融合演習を必修科目として配置し、各分野の学生が混合チームを作り自ら課題を設定し、調査・分析・議論を通じて解決策を検討する学修機会を提供する。これにより、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-B（地域・社会課題対応力）、DP-D（専門分野応用力）、DP-E（課題解決・協働力）、DP-F（コミュニケーション力）、DP-G（主体的・継続的学修力）の強化・育成を図る。

半導体技術者教育

全コースの学生が受講可能な選択科目として、半導体技術を中心とした工学基盤技術に関する教育を行い、現代の工学分野に共通する基礎的理解と応用的視点を養う。これらの科目は、DP-B（地域・社会課題対応力）、DP-C（工学基礎力）、DP-D（専門分野応用力）の基盤形成に寄与する。

海外異文化理解

海外異文化理解に関する選択科目を配置し、異なる文化的背景や価値観を理解することを

通じて、技術と社会の関係を国際的視点から考察する能力を育成する。これにより、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-F（コミュニケーション力）の涵養を図るとともに、技術者としての国際的素養を身につける。

数理データサイエンス及び AI 教育

数理・データサイエンス及び AI に関する科目群を選択科目として配置し、データに基づく課題分析や意思決定の基礎を学ぶ機会を提供する。これらの学修を通じて、DP-C（工学基礎力）、DP-E（課題解決・協働力）、DP-G（主体的・継続的学修力）を強化する。

2. コース別・分野別科目の編成方針

スマートメカニクスコース

スマートメカニクスコースでは、情報系分野と機械系分野を組み合わせ、両分野に共通する工学基礎及び情報・制御に関する基盤を修得するためのコース共通科目を用意した上で、各分野の専門性を段階的に学修できる教育課程を編成する。

機械工学分野

機械工学分野では、エネルギーや機械システムに関わる専門的知識と技術を体系的に修得する。これらを基に、機械システムに関する技術的課題を分析し、解決に向けて応用する能力を育成する。また、設計・製作や実験・演習を通じて、チームで協働しながら課題に取り組む力を養う。

本分野では、DP-D（専門分野応用力）及び DP-E（課題解決・協働力）を重点的に育成する。

3. 実践的・統合的学修

全コース共通で、実験・実習、卒業研究を必修科目として配置し、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-B（地域・社会課題対応力）、DP-D（専門分野応用力）、DP-E（課題解決・協働力）、DP-F（コミュニケーション力）、DP-G（主体的・継続的学修力）を総合的に育成する。特に卒業研究では、各コース・分野の専門性を踏まえつつ、自ら課題を設定し、計画・実行・発表までを行う能力を評価する。

4. 教育方法・学修方法

教育方法・学修方法は DP に基づき次のように設定する。各科目は講義、演習、実験・実習、グループワーク、プレゼンテーションなどを適切に組み合わせ、その学修方法をシラバスに明記する。アクティブ・ラーニングや LMS を活用し、学生の主体的な学修を促進する。コース・分野横断的な学修機会を設け、多様な専門分野への理解を深める。

5. 成績評価・到達度評価

成績評価や達成度評価は次のように実施する。各科目において、シラバスに到達目標及び評価方法を明示する。成績評価は、筆記試験、レポート、小テスト、発表、作品評価、実技等により、DP に掲げる学修成果の到達度を多面的に評価する。卒業研究では、DP-D、DP-E、DP-F、DP-G を中心に総合評価を行う。各科目の成績は以下の基準に基づき 100 点法で評価し、60 点以上を合格とし単位を認定する。

秀：90 ～ 100 点、優：80 ～ 89 点、良：70 ～ 79 点、

可：60 ～ 69 点、不可：59 点以下

なお、学則第 26 条の 2、第 28 条及び第 28 条の 2 に規定する単位認定の標語については、先の基準にかかわらず「認」とする。

6. 教育課程の点検・改善

DP ならびに CP の改善については次のように実施する。学修成果、成績分布、学生アンケート等を用いて教育目標、ならびに DP・CP を定期的に点検する。点検結果を基に、教育課程表、教育内容・方法・評価の改善を継続的に行い、ディプロマポリシーの達成水準を維持・向上させる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_admission_policy2.pdf）

（概要）

1. 基本方針

本学科では、ディプロマポリシーに掲げる学修成果（DP-A～DP-G）を達成できる学生を受け入れるため、工学を学ぶための基礎学力を備え、主体的に学修に取り組む意欲を有する人材を求めます。

本アドミッションポリシーは、学科及び各コース・分野において求める学生像を示すものであり、入学後の教育は、カリキュラムポリシーに基づき段階的に行います。

2. 創造工学科における求める学生像

工学を学ぶための基礎学力を備えた人で、以下のような資質や意欲を備えた学生の入学を期待しています。

（1）工学・ものづくりへの関心と将来像

技術者として社会に貢献したいという意欲を持ち、工学や「ものづくり」に関心を有している人。【対応DP：DP-C、DP-D、DP-E】

（2）主体的に学び続ける姿勢

向上心を持って学校生活に取り組み、新しい知識や技術を学び続けようとする意欲のある人。【対応DP：DP-G】

（3）社会や地域への関心

社会の出来事や身近な課題に関心をもち、より良い社会を築こうとする意識を有している人。【対応DP：DP-A、DP-B】

（4）協調性と他者への配慮

約束や規則を守り、周囲の人々を尊重しながら協働できる人。【対応DP：DP-E、DP-F】

（5）挑戦する姿勢

失敗を恐れず、新しいことに挑戦し、粘り強く取り組もうとする意欲を有している人。

【対応DP：DP-E、DP-G】

3. 入学者選抜の基本方針

A. 第1年次入学者選抜

基礎学力及び学修意欲を総合的に評価し、本学科での学修に必要な基盤を有する者を選抜します。基礎学力については、本校での学習に重要な数学、理科、英語の成績を重視します。

（1）自己推薦選抜

○ 自己推薦（一般）による選抜

志望動機書、個人調査書及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。

○ 自己推薦（特別）による選抜

志望動機書、個人調査書、作文及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。

○ 自己推薦（数学重視）による選抜

志望動機書、個人調査書及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。

（2）学力選抜

○ 一般学力選抜

出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語、国語、社会）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。

○ 北海道内4高専複数校志望受検制度による選抜 出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語、国語、社会）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。 ○ 帰国子女特別選抜 出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。 B. 第4年次編入学者選抜 志望するコース・分野の学修に必要な基礎学力及び専門的素養、ならびに主体的に学修に取り組む意欲を有する者を選抜します。英語、数学、理科（筆記試験）又は専門科目（口頭試験）（高等学校の出身科により、理科又は専門のいずれかを出題）による学力検査、面接及び調査書により総合的に評価します。 4. コース・分野別に期待する学生像 スマートメカニクスコース（情報工学分野・機械工学分野） 情報技術と機械技術の融合に関心を持ち、情報工学分野又は機械工学分野のいずれかを基盤として、将来的に両分野を横断的に学修したいと考えている人を期待します。【対応DP：DP-C、DP-D、DP-E】 機械工学分野 1. 機械やものづくりに関心があり、新しい製品や仕組みに挑戦したい人 2. 人や環境に配慮したものづくりに関心を有している人

学部等名 創造工学科 エレクトロニクスコース 電気工学分野
教育研究上の目的（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/sstudy/div-creat/） （概要） 本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 創造工学科の教育上の目的は、情報工学、機械工学、電気工学、電子工学、建築学の各専門分野を融合し、地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成することとする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_diploma_policy2.pdf） （概要） 本校では、学則に定める所定の単位を修得し、実践的・創造的技術者として以下のディプロマポリシーに基づく必要な能力を身につけ、5年間の課程を修了した者に対し、卒業を認定します。ただし、各コース及び分野の特性に応じた専門性については、カリキュラムポリシーに基づく教育課程の中で段階的に育成する。 学習目標 DP-A：社会・倫理的理解力 人類の歴史的背景、文化及び価値観の多様性を踏まえ、技術が社会や環境に与える影響を多角的に捉え、地球的規模の社会問題・環境問題について技術者の立場から考察できる。また、技術者が社会に対して負う責任を理解し、倫理的配慮に基づいた判断ができる。 DP-B：地域・社会課題対応力 地域産業や社会が直面する課題を把握し、工学的知識や技術を活用して、その解決に向けた基礎的な検討や提案を行うことができる。地域社会との関わりを意識し、実践的な視点で課題に取り組む姿勢を有する。 DP-C：工学基礎力 数学、自然科学、情報技術及び基礎工学に関する幅広い知識を修得し、それらを組み合わせて技術的課題を理解・説明し、基礎的な問題解決に応用できる。

DP-D：専門分野応用力

各コース及び分野における専門分野の知識と技術を修得し、専門的観点から課題を捉え、適切な手法を選択して応用することができる。複数分野を有するコースにおいては、それぞれの分野の特性を理解した上で専門性を発揮できる。

DP-E：課題解決・協働力

技術的課題を分析・整理し、解決に向けた計画を立案・実行し、その結果を評価・改善する一連のプロセスを遂行できる。また、他者と協働し、役割分担や意見交換を通じてチームとして課題解決に取り組むことができる。

DP-F：コミュニケーション力

文章、口頭発表、図表及び視覚的表現を用いて、技術的内容や自身の考えを論理的かつ分かりやすく伝えることができる。また、日本語による的確な記述・討論能力に加え、基礎的な英語による文章作成及び簡単な口頭コミュニケーションを行うことができる。

DP-G：主体的・継続的学修力

技術の進展や社会の変化を踏まえ、自らの専門分野及び関連分野について主体的に学び続ける必要性を理解し、継続的に学修に取り組む姿勢を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_curriculum_policy2.pdf）

（概要）

本学科では、ディプロマポリシーに掲げる学修成果（DP-A～G）を達成するため、スマートメカニクスコース（情報工学分野・機械工学分野）、エレクトロニクスコース（電気工学分野・電子工学分野）、建築デザインコース（建築学分野）を設置し、いずれのコースにおいても共通の学修成果を保証するとともに、コース・分野ごとの専門性を段階的に育成する。

なお、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。

1. 第1学年では混合学級とし、一般科目、学科共通科目を中心に編成する。
2. 第2学年から、分野ごとに配属が決定し、学年が進むに従いコース別、分野別の専門科目が多くなるくさび型に科目を編成する。
3. 第4学年では、5分野に亘る幅広い知識・技術・応用力等を身につけるため、各分野共通科目である複合融合演習等を編成する。

1. 教育課程の学科共通科目の編成方針

（1）一般科目

全コース共通の一般科目として、数学、自然科学、人文・社会科学を配置し、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-C（工学基礎力）、DP-G（主体的・継続的学修力）の基盤を形成する。これにより、技術と社会・環境との関係を理解し、専門教育へ円滑に接続できる基礎力を育成する。これらの科目は低学年を中心に編成する。

（2）専門科目

全コース共通の専門科目として、基礎工学、情報技術、計測・制御、材料・構造の基礎等を配置し、DP-C（工学基礎力）、DP-E（課題解決・協働力）を中心に育成する。これらの科目は、各コース・分野に共通する専門基盤として位置づけ、専門教育への円滑な接続を図る。

さらに、本校独自の教育的特色として、全コースの学生が履修可能な横断的専門科目を配置し、分野横断的な視点と実践的能力の育成を図る。

複合融合演習

課題発見・解決型の複合融合演習を必修科目として配置し、各分野の学生が混合チームを作り自ら課題を設定し、調査・分析・議論を通じて解決策を検討する学修機会を提供する。これにより、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-B（地域・社会課題対応力）、DP-D（専門分野応用力）、DP-E（課題解決・協働力）、DP-F（コミュニケーション力）、DP-G（主体的・継続的学修力）の強化・育成を図る。

半導体技術者教育

全コースの学生が受講可能な選択科目として、半導体技術を中心とした工学基盤技術に関する教育を行い、現代の工学分野に共通する基礎的理解と応用的視点を養う。これらの科目は、DP-B（地域・社会課題対応力）、DP-C（工学基礎力）、DP-D（専門分野応用力）の基盤形成に寄与する。

海外異文化理解

海外異文化理解に関する選択科目を配置し、異なる文化的背景や価値観を理解することを通じて、技術と社会の関係を国際的視点から考察する能力を育成する。これにより、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-F（コミュニケーション力）の涵養を図るとともに、技術者としての国際的素養を身につける。

数理データサイエンス及びAI教育

数理・データサイエンス及びAIに関する科目群を選択科目として配置し、データに基づく課題分析や意思決定の基礎を学ぶ機会を提供する。これらの学修を通じて、DP-C（工学基礎力）、DP-E（課題解決・協働力）、DP-G（主体的・継続的学修力）を強化する。

2. コース別・分野別科目の編成方針

エレクトロニクスコース

エレクトロニクスコースでは、電気系分野と電子系分野を組み合わせ、電気・電子分野に共通する基礎を修得するためのコース共通科目を用意した上で、それぞれの専門分野を体系的に学修できる教育課程を編成する。

電気工学分野

電気工学分野では、電気エネルギーの生成、伝送及び利用に関わる専門的知識と技術を体系的に修得する。これらを基に、電気システムに関する課題を分析し、安全性や社会的要請を考慮しながら解決に取り組む能力を育成する。また、演習や実験等を通じて、チームで協働しながら課題に対応する力を養う。

本分野では、DP-D（専門分野応用力）及びDP-E（課題解決・協働力）を重点的に育成する。

3. 実践的・統合的学修

全コース共通で、実験・実習、卒業研究を必修科目として配置し、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-B（地域・社会課題対応力）、DP-D（専門分野応用力）、DP-E（課題解決・協働力）、DP-F（コミュニケーション力）、DP-G（主体的・継続的学修力）を総合的に育成する。特に卒業研究では、各コース・分野の専門性を踏まえつつ、自ら課題を設定し、計画・実行・発表までを行う能力を評価する。

4. 教育方法・学修方法

教育方法・学修方法はDPに基づき次のように設定する。各科目は講義、演習、実験・実習、グループワーク、プレゼンテーションなどを適切に組み合わせ、その学修方法をシラバスに明記する。アクティブ・ラーニングやLMSを活用し、学生の主体的な学修を促進する。コース・分野横断的な学修機会を設け、多様な専門分野への理解を深める。

5. 成績評価・到達度評価

成績評価や達成度評価は次のように実施する。各科目において、シラバスに到達目標及び評価方法を明示する。成績評価は、筆記試験、レポート、小テスト、発表、作品評価、実技等により、DPに掲げる学修成果の到達度を多面的に評価する。卒業研究では、DP-D、DP-E、DP-F、DP-Gを中心に総合評価を行う。各科目の成績は以下の基準に基づき100点法で評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。

秀：90～100点、優：80～89点、良：70～79点、

可：60 ～ 69 点、不可：59 点以下

なお、学則第 26 条の 2、第 28 条及び第 28 条の 2 に規定する単位認定の標語については、先の基準にかかわらず「認」とする。

6. 教育課程の点検・改善

DP ならびに CP の改善については次のように実施する。学修成果、成績分布、学生アンケート等を用いて教育目標、ならびに DP・CP を定期的に点検する。点検結果を基に、教育課程表、教育内容・方法・評価の改善を継続的に行い、ディプロマポリシーの達成水準を維持・向上させる。

入 学 者 の 受 入 れ に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ： https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_admission_policy2.pdf）

（概要）

1. 基本方針

本学科では、ディプロマポリシーに掲げる学修成果（DP-A～DP-G）を達成できる学生を受け入れるため、工学を学ぶための基礎学力を備え、主体的に学修に取り組む意欲を有する人材を求めます。

本アドミッションポリシーは、学科及び各コース・分野において求める学生像を示すものであり、入学後の教育は、カリキュラムポリシーに基づき段階的に行います。

2. 創造工学科における求める学生像

工学を学ぶための基礎学力を備えた人で、以下のような資質や意欲を備えた学生の入学を期待しています。

（1）工学・ものづくりへの関心と将来像

技術者として社会に貢献したいという意欲を持ち、工学や「ものづくり」に関心を有している人。【対応DP：DP-C、DP-D、DP-E】

（2）主体的に学び続ける姿勢

向上心を持って学校生活に取り組み、新しい知識や技術を学び続けようとする意欲のある人。【対応DP：DP-G】

（3）社会や地域への関心

社会の出来事や身近な課題に関心をもち、より良い社会を築こうとする意識を有している人。【対応DP：DP-A、DP-B】

（4）協調性と他者への配慮

約束や規則を守り、周囲の人々を尊重しながら協働できる人。【対応DP：DP-E、DP-F】

（5）挑戦する姿勢

失敗を恐れず、新しいことに挑戦し、粘り強く取り組もうとする意欲を有している人。

【対応DP：DP-E、DP-G】

3. 入学者選抜の基本方針

A. 第 1 年次入学者選抜

基礎学力及び学修意欲を総合的に評価し、本学科での学修に必要な基盤を有する者を選抜します。基礎学力については、本校での学習に重要な数学、理科、英語の成績を重視します。

（1）自己推薦選抜

○ 自己推薦（一般）による選抜

志望動機書、個人調査書及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。

○ 自己推薦（特別）による選抜

志望動機書、個人調査書、作文及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意

欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。

○ 自己推薦（数学重視）による選抜

志望動機書、個人調査書及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。

（２）学力選抜

○ 一般学力選抜

出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語、国語、社会）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。

○ 北海道内４高専複数校志望受検制度による選抜

出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語、国語、社会）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。

○ 帰国子女特別選抜

出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。

B. 第４年次編入学者選抜

志望するコース・分野の学修に必要な基礎学力及び専門的素養、ならびに主体的に学修に取り組む意欲を有する者を選抜します。英語、数学、理科（筆記試験）又は専門科目（口頭試験）（高等学校の出身科により、理科又は専門のいずれかを出題）による学力検査、面接及び調査書により総合的に評価します。

４．コース・分野別に期待する学生像

エレクトロニクスコース（電気工学分野・電子工学分野）

電気・電子工学分野の共通基盤を学び、社会インフラや情報通信技術を支える技術者を目指す人を期待します。【対応DP：DP-C、DP-D、DP-E】

電気工学分野

- １． エネルギー、電力などに興味がある人
- ２． 社会を支える基盤技術に関心を有している人

学部等名 創造工学科 エレクトロニクスコース 電子工学分野

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.kushiro-ct.ac.jp/ssstudy/div-creat/>）

（概要）

本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

創造工学科の教育上の目的は、情報工学、機械工学、電気工学、電子工学、建築学の各専門分野を融合し、地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成することとする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_diploma_policy2.pdf）

（概要）

本校では、学則に定める所定の単位を修得し、実践的・創造的技術者として以下のディプロマポリシーに基づく必要な能力を身につけ、５年間の課程を修了した者に対し、卒業を認定します。ただし、各コース及び分野の特性に応じた専門性については、カリキュラムポリシーに基づく教育課程の中で段階的に育成する。

学習目標

DP-A：社会・倫理的理解力

人類の歴史的背景、文化及び価値観の多様性を踏まえ、技術が社会や環境に与える影響を多角的に捉え、地球的規模の社会問題・環境問題について技術者の立場から考察できる。

また、技術者が社会に対して負う責任を理解し、倫理的配慮に基づいた判断ができる。

DP-B：地域・社会課題対応力

地域産業や社会が直面する課題を把握し、工学的知識や技術を活用して、その解決に向けた基礎的な検討や提案を行うことができる。地域社会との関わりを意識し、実践的な視点で課題に取り組む姿勢を有する。

DP-C：工学基礎力

数学、自然科学、情報技術及び基礎工学に関する幅広い知識を修得し、それらを組み合わせて技術的課題を理解・説明し、基礎的な問題解決に応用できる。

DP-D：専門分野応用力

各コース及び分野における専門分野の知識と技術を修得し、専門的観点から課題を捉え、適切な手法を選択して応用することができる。複数分野を有するコースにおいては、それぞれの分野の特性を理解した上で専門性を発揮できる。

DP-E：課題解決・協働力

技術的課題を分析・整理し、解決に向けた計画を立案・実行し、その結果を評価・改善する一連のプロセスを遂行できる。また、他者と協働し、役割分担や意見交換を通じてチームとして課題解決に取り組むことができる。

DP-F：コミュニケーション力

文章、口頭発表、図表及び視覚的表現を用いて、技術的内容や自身の考えを論理的かつ分かりやすく伝えることができる。また、日本語による的確な記述・討論能力に加え、基礎的な英語による文章作成及び簡単な口頭コミュニケーションを行うことができる。

DP-G：主体的・継続的学修力

技術の進展や社会の変化を踏まえ、自らの専門分野及び関連分野について主体的に学び続ける必要性を理解し、継続的に学修に取り組む姿勢を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_curriculum_policy2.pdf）

（概要）

本学科では、ディプロマポリシーに掲げる学修成果（DP-A～G）を達成するため、スマートメカニクスコース（情報工学分野・機械工学分野）、エレクトロニクスコース（電気工学分野・電子工学分野）、建築デザインコース（建築学分野）を設置し、いずれのコースにおいても共通の学修成果を保証するとともに、コース・分野ごとの専門性を段階的に育成する。

なお、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。

1. 第1学年では混合学級とし、一般科目、学科共通科目を中心に編成する。
2. 第2学年から、分野ごとに配属が決定し、学年が進むに従いコース別、分野別の専門科目が多くなるくさび型に科目を編成する。
3. 第4学年では、5分野に亘る幅広い知識・技術・応用力等を身につけるため、各分野共通科目である複合融合演習等を編成する。

1. 教育課程の学科共通科目の編成方針

（1）一般科目

全コース共通の一般科目として、数学、自然科学、人文・社会科学を配置し、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-C（工学基礎力）、DP-G（主体的・継続的学修力）の基盤を形成する。これにより、技術と社会・環境との関係を理解し、専門教育へ円滑に接続できる基礎力を育成する。これらの科目は低学年を中心に編成する。

（2）専門科目

全コース共通の専門科目として、基礎工学、情報技術、計測・制御、材料・構造の基礎等を配置し、DP-C（工学基礎力）、DP-E（課題解決・協働力）を中心に育成する。これらの科目は、各コース・分野に共通する専門基盤として位置づけ、専門教育への円滑な接続を図る。

さらに、本校独自の教育的特色として、全コースの学生が履修可能な横断的専門科目を配

置し、分野横断的な視点と実践的能力の育成を図る。

複合融合演習

課題発見・解決型の複合融合演習を必修科目として配置し、各分野の学生が混合チームを作り自ら課題を設定し、調査・分析・議論を通じて解決策を検討する学修機会を提供する。これにより、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-B（地域・社会課題対応力）、DP-D（専門分野応用力）、DP-E（課題解決・協働力）、DP-F（コミュニケーション力）、DP-G（主体的・継続的学修力）の強化・育成を図る。

半導体技術者教育

全コースの学生が受講可能な選択科目として、半導体技術を中心とした工学基盤技術に関する教育を行い、現代の工学分野に共通する基礎的理解と応用的視点を養う。これらの科目は、DP-B（地域・社会課題対応力）、DP-C（工学基礎力）、DP-D（専門分野応用力）の基盤形成に寄与する。

海外異文化理解

海外異文化理解に関する選択科目を配置し、異なる文化的背景や価値観を理解することを通じて、技術と社会の関係を国際的視点から考察する能力を育成する。これにより、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-F（コミュニケーション力）の涵養を図るとともに、技術者としての国際的素養を身につける。

数理データサイエンス及びAI教育

数理・データサイエンス及びAIに関する科目群を選択科目として配置し、データに基づく課題分析や意思決定の基礎を学ぶ機会を提供する。これらの学修を通じて、DP-C（工学基礎力）、DP-E（課題解決・協働力）、DP-G（主体的・継続的学修力）を強化する。

2. コース別・分野別科目の編成方針

エレクトロニクスコース

エレクトロニクスコースでは、電気系分野と電子系分野を組み合わせ、電気・電子分野に共通する基礎を修得するためのコース共通科目を用意した上で、それぞれの専門分野を体系的に学修できる教育課程を編成する。

電子工学分野

電子工学分野では、電子デバイス、情報通信及び制御に関わる専門的知識と技術を体系的に修得する。これらを基に、電子システムに関する課題を分析し、統合的に解決する能力を育成する。また、演習や実験等を通じて、チームで協働しながら課題に対応する力を養う。

本分野では、DP-D（専門分野応用力）及びDP-E（課題解決・協働力）を重点的に育成する。

3. 実践的・統合的学修

全コース共通で、実験・実習、卒業研究を必修科目として配置し、DP-A（社会・倫理的理解力）、DP-B（地域・社会課題対応力）、DP-D（専門分野応用力）、DP-E（課題解決・協働力）、DP-F（コミュニケーション力）、DP-G（主体的・継続的学修力）を総合的に育成する。特に卒業研究では、各コース・分野の専門性を踏まえつつ、自ら課題を設定し、計画・実行・発表までを行う能力を評価する。

4. 教育方法・学修方法

教育方法・学修方法はDPに基づき次のように設定する。各科目は講義、演習、実験・実習、グループワーク、プレゼンテーションなどを適切に組み合わせ、その学修方法をシラバスに明記する。アクティブ・ラーニングやLMSを活用し、学生の主体的な学修を促進する。コース・分野横断的な学修機会を設け、多様な専門分野への理解を深める。

5. 成績評価・到達度評価

成績評価や達成度評価は次のように実施する。各科目において、シラバスに到達目標及び評価方法を明示する。成績評価は、筆記試験、レポート、小テスト、発表、作品評価、実技等により、DP に掲げる学修成果の到達度を多面的に評価する。卒業研究では、DP-D、DP-E、DP-F、DP-G を中心に総合評価を行う。各科目の成績は以下の基準に基づき 100 点法で評価し、60 点以上を合格とし単位を認定する。

秀：90 ～ 100 点、優：80 ～ 89 点、良：70 ～ 79 点、

可：60 ～ 69 点、不可：59 点以下

なお、学則第 26 条の 2、第 28 条及び第 28 条の 2 に規定する単位認定の標語については、先の基準にかかわらず「認」とする。

6. 教育課程の点検・改善

DP ならびに CP の改善については次のように実施する。学修成果、成績分布、学生アンケート等を用いて教育目標、ならびに DP・CP を定期的に点検する。点検結果を基に、教育課程表、教育内容・方法・評価の改善を継続的に行い、ディプロマポリシーの達成水準を維持・向上させる。

入 学 者 の 受 入 れ に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ： https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_admission_policy2.pdf）

（概要）

1. 基本方針

本学科では、ディプロマポリシーに掲げる学修成果（DP-A～DP-G）を達成できる学生を受け入れるため、工学を学ぶための基礎学力を備え、主体的に学修に取り組む意欲を有する人材を求めます。

本アドミッションポリシーは、学科及び各コース・分野において求める学生像を示すものであり、入学後の教育は、カリキュラムポリシーに基づき段階的に行います。

2. 創造工学科における求める学生像

工学を学ぶための基礎学力を備えた人で、以下のような資質や意欲を備えた学生の入学を期待しています。

（1）工学・ものづくりへの関心と将来像

技術者として社会に貢献したいという意欲を持ち、工学や「ものづくり」に関心を有している人。【対応DP：DP-C、DP-D、DP-E】

（2）主体的に学び続ける姿勢

向上心を持って学校生活に取り組み、新しい知識や技術を学び続けようとする意欲のある人。【対応DP：DP-G】

（3）社会や地域への関心

社会の出来事や身近な課題に関心をもち、より良い社会を築こうとする意識を有している人。【対応DP：DP-A、DP-B】

（4）協調性と他者への配慮

約束や規則を守り、周囲の人々を尊重しながら協働できる人。【対応DP：DP-E、DP-F】

（5）挑戦する姿勢

失敗を恐れず、新しいことに挑戦し、粘り強く取り組もうとする意欲を有している人。

【対応DP：DP-E、DP-G】

3. 入学者選抜の基本方針

A. 第1年次入学者選抜

基礎学力及び学修意欲を総合的に評価し、本学科での学修に必要な基盤を有する者を選抜します。基礎学力については、本校での学習に重要な数学、理科、英語の成績を重視しま

す。 (1) 自己推薦選抜 ○ 自己推薦（一般）による選抜 志望動機書、個人調査書及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。 ○ 自己推薦（特別）による選抜 志望動機書、個人調査書、作文及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。 ○ 自己推薦（数学重視）による選抜 志望動機書、個人調査書及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。 (2) 学力選抜 ○ 一般学力選抜 出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語、国語、社会）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。 ○ 北海道内4高専複数校志望受検制度による選抜 出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語、国語、社会）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。 ○ 帰国子女特別選抜 出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。 B. 第4年次編入学者選抜 志望するコース・分野の学修に必要な基礎学力及び専門的素養、ならびに主体的に学修に取り組む意欲を有する者を選抜します。英語、数学、理科（筆記試験）又は専門科目（口頭試問）（高等学校の出身科により、理科又は専門のいずれかを出題）による学力検査、面接及び調査書により総合的に評価します。 4. コース・分野別に期待する学生像 エレクトロニクスコース（電気工学分野・電子工学分野） 電気・電子工学分野の共通基盤を学び、社会インフラや情報通信技術を支える技術者を目指す人を期待します。【対応DP：DP-C、DP-D、DP-E】 電子工学分野 1. 半導体、通信、制御、情報技術に興味がある人 2. 新しい電子デバイスや情報通信の仕組みに挑戦したい人
--

学部等名	創造工学科 エレクトロニクスコース 建築学分野
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kushiro-ct.ac.jp/sstudy/div-creat/ ）	（概要） 本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 創造工学科の教育上の目的は、情報工学、機械工学、電気工学、電子工学、建築学の各専門分野を融合し、地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成することとする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_diploma_policy2.pdf ）	

(概要) 本校では、学則に定める所定の単位を修得し、実践的・創造的技術者として以下のディプロマポリシーに基づく必要な能力を身につけ、5年間の課程を修了した者に対し、卒業を認定します。ただし、各コース及び分野の特性に応じた専門性については、カリキュラムポリシーに基づく教育課程の中で段階的に育成する。 学習目標 DP-A：社会・倫理的理解力 人類の歴史的背景、文化及び価値観の多様性を踏まえ、技術が社会や環境に与える影響を多角的に捉え、地球的規模の社会問題・環境問題について技術者の立場から考察できる。また、技術者が社会に対して負う責任を理解し、倫理的配慮に基づいた判断ができる。 DP-B：地域・社会課題対応力 地域産業や社会が直面する課題を把握し、工学的知識や技術を活用して、その解決に向けた基礎的な検討や提案を行うことができる。地域社会との関わりを意識し、実践的な視点で課題に取り組む姿勢を有する。 DP-C：工学基礎力 数学、自然科学、情報技術及び基礎工学に関する幅広い知識を修得し、それらを組み合わせ技術的課題を理解・説明し、基礎的な問題解決に応用できる。 DP-D：専門分野応用力 各コース及び分野における専門分野の知識と技術を修得し、専門的観点から課題を捉え、適切な手法を選択して応用することができる。複数分野を有するコースにおいては、それぞれの分野の特性を理解した上で専門性を発揮できる。 DP-E：課題解決・協働力 技術的課題を分析・整理し、解決に向けた計画を立案・実行し、その結果を評価・改善する一連のプロセスを遂行できる。また、他者と協働し、役割分担や意見交換を通じてチームとして課題解決に取り組むことができる。 DP-F：コミュニケーション力 文章、口頭発表、図表及び視覚的表現を用いて、技術的内容や自身の考えを論理的かつ分かりやすく伝えることができる。また、日本語による的確な記述・討論能力に加え、基礎的な英語による文章作成及び簡単な口頭コミュニケーションを行うことができる。 DP-G：主体的・継続的学修力 技術の進展や社会の変化を踏まえ、自らの専門分野及び関連分野について主体的に学び続ける必要性を理解し、継続的に学修に取り組む姿勢を身に付けている。 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_curriculum_policy2.pdf）
(概要) 本学科では、ディプロマポリシーに掲げる学修成果（DP-A～G）を達成するため、スマートメカニクスコース（情報工学分野・機械工学分野）、エレクトロニクスコース（電気工学分野・電子工学分野）、建築デザインコース（建築学分野）を設置し、いずれのコースにおいても共通の学修成果を保証するとともに、コース・分野ごとの専門性を段階的に育成する。 なお、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。 1. 第1学年では混合学級とし、一般科目、学科共通科目を中心に編成する。 2. 第2学年から、分野ごとに配属が決定し、学年が進むに従いコース別、分野別の専門科目が多くなるくさび型に科目を編成する。 3. 第4学年では、5分野に亘る幅広い知識・技術・応用力等を身につけるため、各分野共通科目である複合融合演習等を編成する。 1. 教育課程の学科共通科目の編成方針 (1) 一般科目 全コース共通の一般科目として、数学、自然科学、人文・社会科学を配置し、DP-A（社会・

倫理的理解力)、DP-C(工学基礎力)、DP-G(主体的・継続的学修力)の基盤を形成する。これにより、技術と社会・環境との関係を理解し、専門教育へ円滑に接続できる基礎力を育成する。これらの科目は低学年を中心に編成する。

(2) 専門科目

全コース共通の専門科目として、基礎工学、情報技術、計測・制御、材料・構造の基礎等を配置し、DP-C(工学基礎力)、DP-E(課題解決・協働力)を中心に育成する。これらの科目は、各コース・分野に共通する専門基盤として位置づけ、専門教育への円滑な接続を図る。

さらに、本校独自の教育的特色として、全コースの学生が履修可能な横断的専門科目を配置し、分野横断的な視点と実践的能力の育成を図る。

複合融合演習

課題発見・解決型の複合融合演習を必修科目として配置し、各分野の学生が混合チームを作り自ら課題を設定し、調査・分析・議論を通じて解決策を検討する学修機会を提供する。これにより、DP-A(社会・倫理的理解力)、DP-B(地域・社会課題対応力)、DP-D(専門分野応用力)、DP-E(課題解決・協働力)、DP-F(コミュニケーション力)、DP-G(主体的・継続的学修力)の強化・育成を図る。

半導体技術者教育

全コースの学生が受講可能な選択科目として、半導体技術を中心とした工学基盤技術に関する教育を行い、現代の工学分野に共通する基礎的理解と応用的視点を養う。これらの科目は、DP-B(地域・社会課題対応力)、DP-C(工学基礎力)、DP-D(専門分野応用力)の基盤形成に寄与する。

海外異文化理解

海外異文化理解に関する選択科目を配置し、異なる文化的背景や価値観を理解することを通じて、技術と社会の関係を国際的視点から考察する能力を育成する。これにより、DP-A(社会・倫理的理解力)、DP-F(コミュニケーション力)の涵養を図るとともに、技術者としての国際的素養を身につける。

数理データサイエンス及びAI教育

数理・データサイエンス及びAIに関する科目群を選択科目として配置し、データに基づく課題分析や意思決定の基礎を学ぶ機会を提供する。これらの学修を通じて、DP-C(工学基礎力)、DP-E(課題解決・協働力)、DP-G(主体的・継続的学修力)を強化する。

2. コース別・分野別科目の編成方針

建築デザインコース

建築デザインコースでは、建築関連分野を中心に、建築に関わる基礎から応用までの専門教育を段階的に配置し、建築・空間分野の専門性を体系的に学修できる教育課程を編成する。

建築学分野

建築学分野では、建築物の安全性・耐久性を支える力学的知識、施工・管理に必要な技術的知見、居住性能と環境負荷低減を両立する設備計画、そして多様な社会要求を具現化する意匠・設計能力を身に付ける。また、演習や実験等を通じて、チームで協働しながら課題に対応する力を養う。

3. 実践的・統合的学修

全コース共通で、実験・実習、卒業研究を必修科目として配置し、DP-A(社会・倫理的理解力)、DP-B(地域・社会課題対応力)、DP-D(専門分野応用力)、DP-E(課題解決・

協働力)、DP-F(コミュニケーション力)、DP-G(主体的・継続的学修力)を総合的に育成する。特に卒業研究では、各コース・分野の専門性を踏まえつつ、自ら課題を設定し、計画・実行・発表までを行う能力を評価する。

4. 教育方法・学修方法

教育方法・学修方法はDPに基づき次のように設定する。各科目は講義、演習、実験・実習、グループワーク、プレゼンテーションなどを適切に組み合わせ、その学修方法をシラバスに明記する。アクティブ・ラーニングやLMSを活用し、学生の主体的な学修を促進する。コース・分野横断的な学修機会を設け、多様な専門分野への理解を深める。

5. 成績評価・到達度評価

成績評価や達成度評価は次のように実施する。各科目において、シラバスに到達目標及び評価方法を明示する。成績評価は、筆記試験、レポート、小テスト、発表、作品評価、実技等により、DPに掲げる学修成果の到達度を多面的に評価する。卒業研究では、DP-D、DP-E、DP-F、DP-Gを中心に総合評価を行う。各科目の成績は以下の基準に基づき100点法で評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。

秀：90～100点、優：80～89点、良：70～79点、

可：60～69点、不可：59点以下

なお、学則第26条の2、第28条及び第28条の2に規定する単位認定の標語については、先の基準にかかわらず「認」とする。

6. 教育課程の点検・改善

DPならびにCPの改善については次のように実施する。学修成果、成績分布、学生アンケート等を用いて教育目標、ならびにDP・CPを定期的に点検する。点検結果を基に、教育課程表、教育内容・方法・評価の改善を継続的に行い、ディプロマポリシーの達成水準を維持・向上させる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/pdf/honka_admission_policy2.pdf）

（概要）

1. 基本方針

本学科では、ディプロマポリシーに掲げる学修成果（DP-A～DP-G）を達成できる学生を受け入れるため、工学を学ぶための基礎学力を備え、主体的に学修に取り組む意欲を有する人材を求めます。

本アドミッションポリシーは、学科及び各コース・分野において求める学生像を示すものであり、入学後の教育は、カリキュラムポリシーに基づき段階的に行います。

2. 創造工学科における求める学生像

工学を学ぶための基礎学力を備えた人で、以下のような資質や意欲を備えた学生の入学を期待しています。

（1）工学・ものづくりへの関心と将来像

技術者として社会に貢献したいという意欲を持ち、工学や「ものづくり」に関心を有している人。【対応DP：DP-C、DP-D、DP-E】

（2）主体的に学び続ける姿勢

向上心を持って学校生活に取り組み、新しい知識や技術を学び続けようとする意欲のある人。【対応DP：DP-G】

（3）社会や地域への関心

社会の出来事や身近な課題に関心をもち、より良い社会を築こうとする意識を有している人。【対応DP：DP-A、DP-B】

（4）協調性と他者への配慮

約束や規則を守り、周囲の人々を尊重しながら協働できる人。【対応DP：DP-E、DP-F】

(5) 挑戦する姿勢

失敗を恐れず、新しいことに挑戦し、粘り強く取り組もうとする意欲を有している人。

【対応DP：DP-E、DP-G】

3. 入学者選抜の基本方針

A. 第1年次入学者選抜

基礎学力及び学修意欲を総合的に評価し、本学科での学修に必要な基盤を有する者を選抜します。基礎学力については、本校での学習に重要な数学、理科、英語の成績を重視します。

(1) 自己推薦選抜

○ 自己推薦（一般）による選抜

志望動機書、個人調査書及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。

○ 自己推薦（特別）による選抜

志望動機書、個人調査書、作文及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。

○ 自己推薦（数学重視）による選抜

志望動機書、個人調査書及び面接により、出願資格を満たした志願者の学修意欲、関心分野、主体性及び適性を評価します。

(2) 学力選抜

○ 一般学力選抜

出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語、国語、社会）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。

○ 北海道内4高専複数校志望受検制度による選抜

出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語、国語、社会）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。

○ 帰国子女特別選抜

出願資格を満たした志願者を、学力検査（数学、理科、英語）及び調査書により、工学を学ぶために必要な基礎学力と学修姿勢を評価します。

B. 第4年次編入学者選抜

志望するコース・分野の学修に必要な基礎学力及び専門的素養、ならびに主体的に学修に取り組む意欲を有する者を選抜します。英語、数学、理科（筆記試験）又は専門科目（口頭試問）（高等学校の出身科により、理科又は専門のいずれかを出題）による学力検査、面接及び調査書により総合的に評価します。

4. コース・分野別に期待する学生像

建築デザインコース

建築のデザインや構造、環境に関心を持ち、安全で快適な空間づくりを学びたい人を期待します。【対応DP：DP-C、DP-D、DP-E】

建築学分野

建築学分野は、建築の「意匠と計画」「構造と材料」「環境と設備」に関する技術を学び、「使いやすさ」や「安全性」と共に、「空間の美しさ」を追求できる高度な技術者を養成します。そのため、私たちは次のような人を期待します。

1. 建物や空間のデザイン、構造、環境に関心がある人
2. 人々の安全性や快適性を考えた空間づくりに興味を持つ人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kushiro-ct.ac.jp/2011/09/23/3636/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	7 人	－					7 人
創造工学科	－	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
創造工学科 （一般教育部門）	－	9 人	9 人	3 人	1 人	0 人	22 人
創造工学科 （情報工学分野）	－	4 人	1 人	0 人	2 人	0 人	7 人
創造工学科 （機械工学分野）	－	3 人	3 人	0 人	1 人	0 人	7 人
創造工学科 （電気工学分野）	－	3 人	3 人	0 人	1 人	0 人	7 人
創造工学科 （電子工学分野）	－	2 人	4 人	0 人	1 人	0 人	7 人
創造工学科 （建築工学分野）	－	2 人	2 人	0 人	3 人	0 人	7 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
		20 人					20 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&affiliationId=6508000000					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

[illegible]

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
創造工学科	111 人 (100%)	41 人 (36.9%)	68 人 (61.3%)	2 人 (1.8%)
合計	111 人 (100%)	41 人 (36.9%)	68 人 (61.3%)	2 人 (1.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
建設・生産システム工学専攻	6 人 (100%)	0 人 (0%)	6 人 (100%)	0 人 (0%)
電子情報システム工学専攻	13 人 (100%)	6 人 (46.2%)	6 人 (46.2%)	1 人 (7.7%)
合計	19 人 (100%)	6 人 (31.6%)	12 人 (63.2%)	1 人 (5.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 高専機構として運用している Web シラバスシステム上で、シラバスを作成し、公表している。シラバス記載事項のガイドラインとして教務委員会策定の「Web シラバス入力ガイド」がある。令和 8 年度のシラバスは、令和 8 年 2 月 2 4 日までに教員が入力及び自己チェック、令和 8 年 2 月 2 7 日までに機械的チェックを実施した。令和 8 年 4 月 1 日に新年度シラバスを公開し、一般からの閲覧を可能とした。 授業の初回に、科目担当教員が学生にシラバスを印刷して配布するなどして説明している。本科の 1 年間の授業を行う期間は、定期試験、学校行事等の期間を含め、3 5 週にわたるものとし、学年ごとの授業科目及び履修単位数は、別表の教育課程表のとおりとする。 なお、各授業科目の単位数は、3 0 単位時間（1 単位時間は標準 5 0 分とする。）の授業をもって 1 単位とする。 専攻科の授業科目及びその単位数は、別表の教育課程表のとおりとする。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

本科の全課程の修了の認定に必要な単位数は、1 6 7 単位以上（そのうち、一般科目については 7 8 単位以上、専門科目については 8 9 単位以上とする。）とする。

なお、各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、学年の平素の成績を評価して行うものとする。

専攻科は、2 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、6 2 単位以上を履修した者については、修了を認定する。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	創造工学科 (情報工学分野)	167 単位	有・無	単位
	創造工学科 (機械工学分野)	167 単位	有・無	単位
	創造工学科 (電気工学分野)	167 単位	有・無	単位
	創造工学科 (電子工学分野)	167 単位	有・無	単位
	創造工学科 (建築学分野)	167 単位	有・無	単位
	建設・生産システム 工学専攻	62 単位	有・無	単位

	電子情報システム 工学専攻	62 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kushiro-ct.ac.jp/2011/09/23/3636/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	創造工学科	234,600 円	84,600 円	約 313,590 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 教材費(教科書など)約 55,000 円 寄宿料 4,200 円×2 回(入寮者のみ) 寮費約 20,720 円×12 月(入寮者のみ)
	建設・生産システム工学専攻	234,600 円	84,600 円	1,550 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円
	電子情報システム工学専攻	234,600 円	84,600 円	1,550 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 修学支援新制度による給付奨学金や授業料減免、入学料および寄宿料等に係る免除や徴収猶予の制度の他、日本学生支援機構の貸与奨学金やウェルネット奨学金、その他の各種奨学金を取り扱っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） キャリア教育支援委員会において、学生の就職や進学、インターンシップに関するサポートを行っており、企業ガイダンスや大学編入学説明会に関する計画の立案・実施をしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生の怪我や体調不良等の応急処置、心身に関する相談等に対応する保健室および、学生の全人的成長・発達に関する問題や悩みの解決に必要な助言・援助を行う学生相談室がある。また、専任のインテーカー（非常勤）を雇用し、サポートルーム（相談窓口）を設置している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.kushiro-ct.ac.jp/2011/09/23/3636/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	G101110100553
学校名（〇〇大学 等）	釧路工業高等専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		7 0 人（ 5 2 ） 人	7 4 人（ 5 1 ） 人	7 5 人（ 5 5 ） 人
内 訳	第Ⅰ区分	2 0 人	1 7 人	
	（うち多子世帯）	（ － ）	（ － ）	
	第Ⅱ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ － ）	（ 0 人 ）	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ － ）	（ － 人 ）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	3 2 人	3 3 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人（ 0 ） 人
合計（年間）				7 5 人（ 5 5 ） 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0 人
----	-----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	—	0 人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0 人	0 人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0 人	0 人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	—	0 人
計	人	—	0 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0 人	後半期	0 人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0 人
3 月以上の停学	0 人
年間計	0 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	—	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	—	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	—
計	人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。